

## マレーシア在住日本語教師が「学び直し」として必要と考えていること What Japanese language teachers in Malaysia think needs to be relearned

石澤徹(東京外国語大学)

本研究の目的は、マレーシアにおける日本語教育の持続可能性を高めるために、現職のマレーシア在住日本語教師がどのような「学び直し(リスキリング／アップスキリング)」を必要と感じているのかを明らかにし、教師育成の今後の方向性に貢献することである。マレーシアでは、多様な場で日本語教育が行われているが、教育の質の向上、教育者の専門性の確保・維持、そしてカリキュラムや学習ニーズの変化への対応も検討する必要がある。また、近年、「学び直し(リスキリング)」や「継続的専門性開発(CPD: Continuous Professional Development)」の必要性が国際的にも強調されているが、マレーシア在住日本語教師、特に、マレーシア人教師の視点からこの問題を探る研究はほぼなく、特に、現場の日本語教師が自身の知識やスキルの更新をどのように捉えているかを把握することは、今後の教師育成プログラムや研修内容の設計にとって重要だと考える。

本研究発表では、マレーシア在住日本語教師へのインタビューを通して、教師が直面している教育現場での課題、学び直したいと感じることについてその一端を明らかにし、学び直しの促進を行うために何ができるか検討する一助を提供したい。